

# 「新雇用の突破口に」期待

## 伊仙町、企業誘致「貸工場」起工

### 日マルコ(株) 事業所、来年4月稼働へ



【徳之島】伊仙町「企業誘致促進整備対」建設地は、同町赤木名の奥道(赤木名津築事業)で、建築工事の起工式が24日、同町赤木の町有地であつた。外構工事を含む完成目標は来年2月。来月にも賃借借法人を公募し、日マルコ(株)・神奈川興業(株)・小坂権博行社長のみの場合は、県を含む。着工で企業立地協定を締結。同社は「徳之島事業所」として来年4月からの稼働を目指す。

建設地は、同町赤木名奥道(赤木名津築事業)で、建築工事の起工式が24日、同町赤木の町有地(4710.6平方メートル)で、貸工場本体は、鉄骨平屋建てで延べ床面積1212平方メートル。工期は2ヶ月。前期は工場本体各設備を含む。建築工事は来年1月中旬まで。工事監理業務委託を含む総事業費は3億8111万円(町単独)となつてい

大久保町長はあいさつで「日マルコ(株)は日本の全ての人工衛星やハート機MRJ(三菱重工)のコンテナも受注した企業。徳之島に工場を誘致していただいた。地方創生の大きな流れの中で、さらなる企業誘致に挑戦。本町、同町赤木名、土かんのへ、孫たちも身も心も、新しい雇用機を創出したい」と期待を込めた。

同町が誘致する日マルコ(株)は、コンテナやハート機などの航空・防衛・宇宙分野を中心に多種な製品を製造・販売する企業。町企画課によると、同社徳

来年2月完成へ伊仙町企業誘致促進整備「貸工場」起工式が24日午

「貸工場」は正・非正規から稼働。雇用は年々増員を図り、最終的には「110人規模」が算込まれるという。



会員ログイン (<http://www.nankainn.com//login>)

奄美群島は、奄美大島・喜界島・加計呂麻島・種子島・与路島・徳之島・沖永良部島・与論島の8島。人口は計11万2,846人（2014年6月1日推計）



## 若者の雇用の場確保へ

◎ 2016年3月30日



(<http://www.nankainn.com/nankainn/wp-content/uploads/2016/03/c79b62114e110d1a48fc21029e224431.jpg>)

工場の落成式でテープカットを行う日本マルコの小板橋博行社長（右から3人目）と大久保明町長（同4人目）ら＝29日、伊仙町

伊仙町が航空・宇宙関連機器メーカー日本マルコ(株)（本社・神奈川県横浜市）の事業所の誘致に伴い糸木名地区に建設した工場が完成し、現地で29日、落成式が行われた。工場は今秋にも本格稼働する見通しで、年間約1億円の生産を計画している。同社は「10年後に最大100人の雇用が目標。地域と一体となって若い人が働ける場をつくりたい」としている。

いいね! シェア { 37 } ツイート

◆ 経済 (<http://www.nankainn.com/category/p-economy>)

← 県レッドデータブックを改訂  
<http://www.nankainn.com/a-and-p/%e7%9c%8c%e3%83%ac%e3%83%83%e3%83%89%e3%83%87%e3%83%bc%e3%82%bf%e3%83%96%>

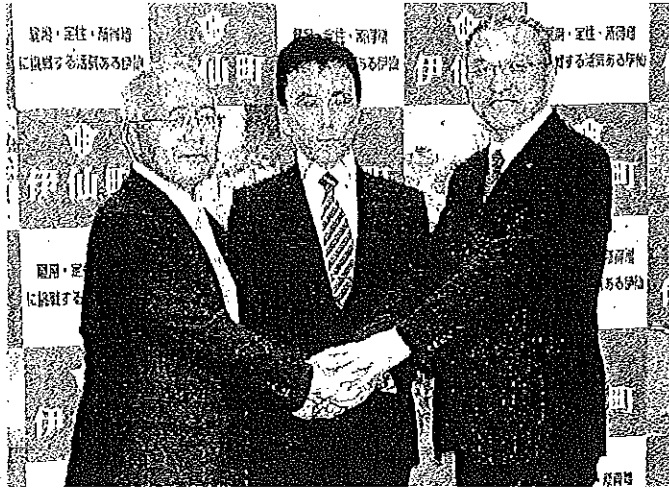
グループホーム「さんび寮」が落成 →  
<http://www.nankainn.com/local/%e3%82%b0%e3%83%ab%e3%83%bc%e3%83%97%e3%83%9b%e3%83%bc%e3%83%a0%e3%80%8c%>

# 伊仙町と日本マルコが立地協定

## 100人規模の雇用に期待

### 来年4月に工場稼働へ

【徳之島総局】伊仙町に事業所を新設する航空・宇宙関連電子機器メーカー日本マルコ(本社・神奈川県横浜市、小坂橋博行社長)は2日、町と立地協定を結んだ。町が糸名地区に工場を整備し、同社に有償で貸し出す。建設費は5億2782万円。工場本体は2016年1月に完成し、同年4月に稼働する。将来的には100人規模の雇用を見込んでおり、地域活性化に大きな期待が高まっている。



日本マルコは航空機や人工衛星で使われるコネクタなどの製造、販売を手掛け、グループ全体の従業員数は約250人。同町の事業所開設は業務拡張に伴うもので、奄美では与論町に続いて2カ所目。町側の誘致の地域振興に期待を込め握手を交わす(左から)大久保明町長、小坂橋啓治副社長、武盛武士県商工労働水産部長、2日、伊仙町

働き掛けを受けて進出を決めた。工場は町が企業誘致促進整備対策事業で糸名地区の県道糸木名―白井―亀津線沿いに整備する。建物は鉄骨平屋造りで、延べ床面積は約1264平方メートル。稼働当初の新規雇用予定者は10〜15人。地元を中心に毎年10人程度を採用する計画。同町のほらい鎮でこの日、調印式があり、大久保明町長と小坂橋啓治副社長らが出席し

た。島内3町の関係者ら約50人が見守る中、武盛武士県商工労働水産部長の立ち会いで両者が協定書に調印した。

大久保町長は「地方創生が叫ばれる中、日本マルコの進出は多くの企業に地方でも成功できることを示し、勇気を与える」と述べ、雇用創出と地域活性化への期待を示した。小坂橋副社長は与論町への2008年の事業所進出に触れ、「与論の経験を生かすことが奄美のためになると思い進出を決意した。日本の航空宇宙産業の発展に貢献するには徳之島の方々の協力が必

社が発展していかうまに進する」と決意を述べた。

# 資源活用 「テレワーク」可能性も

## 伊仙町ビジネス視察ツアー

【徳之島】東京都心の企業経営者らを招いた初の「伊仙町ビジネス視察ツアー」（町主催）が18、19日の日程で行われている。新たなビジネスチャンスを探っている長寿や子

宝、世界自然遺産（推薦）などの地域資源の可能性を探るいわば試行版。自然・歴史・文化面も含め「徳之島は強い魅力を秘める」とし企業のテレワーク（遠隔勤務）や福利厚

生の地としての可能性も示唆した。都心のビジネスパーソン対象のキャリア講座「丸の内プラチナ大学」で伊仙町側が講義したことが縁の「お試し移住」の企業版。同町の地域資源は健康、美容、医療、教育、観光分野などに新たなビジネスチャンスのヒントを秘めていると確信。地方創生加速化交付金を活用して企画。ニュース配信、CM総合研究所、法律事務所、IT派遣業など都内と岩手県の企業経営者7人が呼応した。

ユ一、歴史文化などにもふれ満喫。17日、同町中央公民館で町職員や住民代表らとティスカッションした。同島の環境には昨今の「働き方改革」にもつながる「一時移住で」島の人になつたつもりで会社の仕事をすすめるテレワークに。また企業の福利厚生面への活用では「発信・ソフト開発などIT関連でメンタル面が弱くなつた人を、この自然豊かなこの島に送り込むと良くなると思つ」との意見も。

「初めて来てホッとした気分。汚されず観光地化されてないのも魅力的」との一方で、「これだけの資源があ



「伊仙町ビジネス視察ツアー」との意見交換会—17日、同町中央公民館

「初めて来てホッとした気分。汚されず観光地化されてないのも魅力的」との一方で、「これだけの資源があ

りながら、ほとんど情報発信されず知られてない」と指摘。人口対策のUターン促進には「（幼児期の）早い段階で島の歴史や自然など良さを教えることも大切」とも提案。

島内サイドからは「研究者など玄人、質の高い上客が訪れる島になつてほしい」「人口減に悲観的にならず、（子弟には）島の魅力を教えて欲しい」など意見もあつた。

18日は「伊仙寺子屋」塾で小中学生とも交流した。名所旧跡や「伊仙産コトヒ」試飲なども満喫。19日は島内視察や反省や課題など意見交換会も開き帰途に就く。

# 南嶺日報新聞

(<http://www.nankainn.com/>)

確率

50%

昼

50%

夕

会員登録 (<http://www.nankainn.com/>)

奄美群島は、奄美大島・喜界島・加計呂麻島・請島・与路島・徳之島・沖永良部島・与論島の8島。人口は計11万2,846人（2014年6月1日推計）



## サテライトオフィス/伊仙町が開設呼び掛け

◎2017年4月27日



働き方改革や地方創生の一環として企業のサテライトオフィスの開設に取り組んでいる総務省は24日、「お試しサテライトオフィス交流セミナー」を開催した。2017年度、全国離島で唯一、モデル公共団体に指定された伊仙町が参加。首都圏を中心とした企業に対し、「長寿と子宝の島は生産性の向上が期待できる」とアピールし、サテライトオフィス開設を呼び掛けた。

(<http://www.nankainn.com/nankainn/wp-content/uploads/2017/04/64b6e5a239e24>)

いいね! 110 | シェア (ツイート)

サテライトオフィスに関して活発な質疑応答があった  
伊仙町ブース=24日、総務省講堂

◆ [地域・社会](http://www.nankainn.com/category/local) (<http://www.nankainn.com/category/local>)

# サテライトオフィス利用

## 首都圏 企業ら 「お試し勤務」開始

伊仙町喜念浜  
コテージ

【徳之島】「働き方改革」や地方創生の目玉として総務省が進める「サテライトオフィス」事業。全国離島唯一の同モデル自治体に採択された伊仙町で7月29日から、「同オフィスお試し勤務」の受け入れが始まった。場所は、奄美群島国立公園の「喜念浜」エリアのコテージ2室。首都圏の約20社が関心を寄せ、町側はうち2社の誘致・定着による地元とのコラボ、雇用創出にも期待を寄せている。

企業など団体が本拠地から離れた地方などに「衛星」のように設置する「サテライトオフィス」。総務省は、地方における雇用や新たな働き方などの創出を目指して「お試しサテライトオフィス」事業を推進。4月と7月下旬に「お試し同オフィス交流セミナー」も開いた。

伊仙町コテージには約20社（IT情報関連13社、旅行業3社、コンサルタント、広告業各2社）が関心を示した。町側は、プレゼンテーションで「長寿・子宝日本一」の心身のバランスが整い、都会のストレスから解放され、生産性の向上も期待できる。国立公園の風光明媚な海辺に隣接したコテージなど魅力もアピールしていた。

「お試し勤務」の第1号で来島したのは、中央区日本橋茅場町、印刷会社代表取締役社長の家住英樹氏ら。同町出身の大手銀行支店長との交流も縁。「徳之島の」観光関係の情報発信などに、私たちの企画力も活用させていただきます。地元のひとと一緒に暮らしたい」と話もあ

「住むには素晴らしい環境だ。仕事の面では、地元の方々とコミュニケーションがうまく取れる孤立しない場所がある」とも。そして「町役場の方々



伊仙町の「サテライトオフィスお試し勤務」に参加した都心の企業関係者ら＝7月30日、喜念浜コテージ

の熱意がすごい。人の熱さ・人情味は半端じ

やないと感じた」と感動していた。

「お試し」受け入れ期間は12月末まで。アンケート調査で誘致ニーズを把握し、「地域とのコラボで地元雇用にも結びつけたい。2社（室）のオフィスを確実に誘致したい」（未来創生課）と話した。